

授業づくりのポイント シリーズ⑤

思考ツールやグループ学習で対話的な学びをつくる～

次期学習指導要領改訂の方向性について、すでに論点整理が示されています。今からでも取り組んでいけるアクティブ・ラーニング等への取組等で指導方法の改善が必要です。

そのため、思考ツールやグループ学習、ICT機器等を日々活用し、授業力の精度を上げていきましょう。

<「中央教育審議会 答申」から>

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、以下の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けることが求められています。


- 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。
- 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。
- 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

特に、「対話的な学び」については、身に付けた知識や技能を定着させるとともに、物事の多面的で深い理解に至るためには、多様な表現を通じて、教職員と子供や、子供同士が対話し、それによって思考を広げ深めていくことが求められています。各教科等における言語活動の充実が引き続き重要です。

また、思考力・判断力・表現力等を育成していくために、情報を他者と共有しながら、対話や議論を通じて互いの考え方の共通点や相違点を理解し、相手の考えに共感したり多様な考えを統合したりして、協力しながら問題を解決していくこと（協働的問題解決）が求められています。

アクティブ・ラーニングは、単に形式的な対話型を取り入れた授業や特定の指導の型を指すのではなく、子どもたちの興味や関心をもとに多様で質の高い質の高い学びを引き出すことを目指しているものなのです。

<「新大分スタンダード」から>



新大分スタンダード

新大分スタンダードで
アクティブ・ラーニング！

「学びに向かう力」と思考力・判断力・表現力を育成するワンランク上の授業

- 1 1時間完結型


「主体的な学び」を促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」
 *学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」
 *学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」
 *追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」

- 2 板書の構造化

*思考を整理したり促したりする板書、思考の過程を振り返ることができる板書

- 3 習熟の程度に応じた指導

*「**具体的な評価規準**」に基づく確かな見取り
 *「**努力を要する状況**」の児童生徒に対する手立ての工夫



安心して学べる「学びに向かう学習集団」

- 4 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

「**主体的・対話的で深い学び**」を創造する学習展開
 各教科の**見方・考え方**を働かせて展開する「**課題設定⇒情報収集⇒整理分析⇒まとめ・発信・交流⇒振り返り・評価**」等の学習過程の中で行われる
 *問いの発見・解決、自己の考えの形成・表現、思いに基づく構想・創造
 *様々な人との対話・協働による自分の考えの深化・拡充

本県が目指す授業改善のポイント3

自然と生徒主体の授業、問題解決的な展開の授業になるはず

- 1 自己決定の場を与える

課題に対して、追究し**自分の考えをもつ**
- 2 自己存在感を与える

個々の活躍の場(発表・発信)・**成就感**
個に応じた指導
- 3 共感的人間関係を育む

交流し、他者を**認め合い、励まし合い**
新しい考えを創造

生徒指導の三機能を意識して指導することにより、児童生徒の主体的・対話的で深い学びが実現し、授業改善につながります。新大分スタンダードへ取り組むことがアクティブ・ラーニングの視点に基づいた授業に取り組むことと重なると考えられます。

<「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」から>

総合的な学習の時間では、設定した課題を他者と協同して解決しようとするスパイラルな学習活動を重視しています。総合的な学習の時間でねらう資質や能力の育成のためには、多様な考え

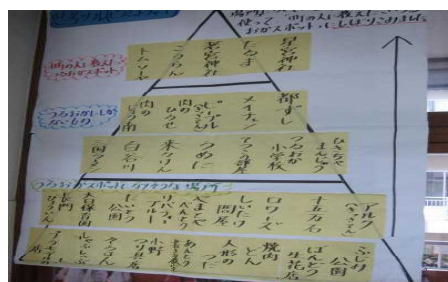
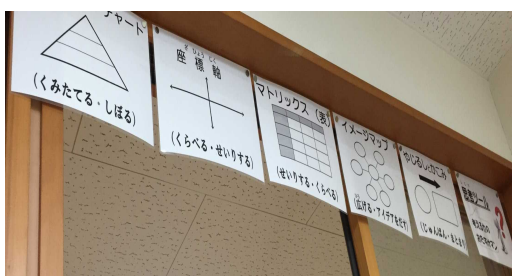
方を持つ他者と適切にかかわり合ったり、社会に参画したり貢献したりすることが欠かせません。この学習活動は、まさにアクティブ・ラーニングに基づいた授業の姿であり、アクティブ・ラーニングの視点に基づいた授業改善が一層必要になります。

文部科学省の指導資料「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」には、思考ツールの活用が各プロセスに沿って示されており参考にして下さい。

アクティブ・ラーニングは、全ての教科等において、児童生徒が能動的に学ぶ学習活動の総称ですが、具体的には、例えば以下のような、【多様な情報を活用して協同的に学ぶ】【異なる視点から考え協同的に学ぶ】【力を合わせたり交流したりして協同的に学ぶ】（「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」から引用）の各場面における児童生徒の姿を想定することができます。

【多様な情報を活用して協同的に学ぶ】

思考ツールを活用することで、一人一人が能動的に学習に参加し、他者と協同して学習をすすめることができます。



教室に思考ツールの名称と活用方法を常時掲示することで、児童生徒が自ら主体的にそれらを取捨選択し、情報の整理に役立てることができる。

【異なる視点から考え協同的に学ぶ】

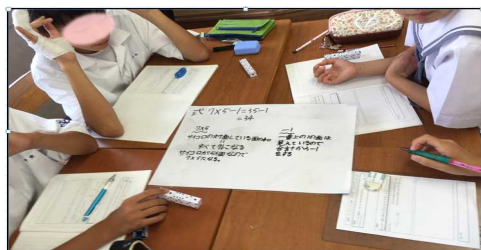
他者が考えを説明しているときには、自分とは異なるものの見方や考え方に触れることとなります。



思考ツール等を活用して協同的に学ぶことで、一人で考えているときには思いつかなかった視点で考えを付加・修正できる。グループの意見の共有によって、お互いの考えの異同について考え、自分の見方・考え方を広げることができる。

【力を合わせたり交流したりして協同的に学ぶ】

個々の考えを他者との交流を通して最終的には統合させるように指導することが必要です。互いに考えを比較したり、関連付けたりさせながら、より深い学びにつなげることができるよう意図的に指導する場面が求められます。



個々の考えを思考ツール等を用いて可視化することで共通理解を図る。その後、精査された自分の考えを自覚させたり、価値付けたりする振り返りの場を設定し、次の学びへとつなげる。

※「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」では「協同的」が使用されています。引用部分は、そのまま引用しています。